

赤穂市内に国内有数の農業メーカーがある。同市加里屋の「ハヤシアグロサイエンス」。受託製造専門では国内で唯一、自前で研究所を有し、ペット用の医薬品も手がける。女性が働きやすい環境づくりにも力を入れ、今では従業員の約6割を女性が占める。今年で設立20年を迎えた同社を、工場長の山元猛さん(51)に案内してもらった。

(小谷千穂)

農業、動物用医薬品の受託製造専門会社

広々とした工場内のベルトコンベヤー上を、牛乳パックに似た形の製品が等間隔で流れていく。それを従業員たちが一つ一つ丁寧にチェックし、手早く段ボール箱に詰めていた。

「ゴルフ場の芝生にまく除草剤です。世界大手の農業メーカーから注文を受けています」。山元さんによると、ゴルフ場向け除草剤の分野では、国内で製造される約半分をハヤシアグロが担っているという。

同社は2004年に設立。前身は製菓大手の塩野義製菓(大阪市)で、赤穂の塩田から出る「にがり」の成分を求めて1917年に赤穂分工場を建設した。同製菓が医療用医薬品に特化するタイミングで、農業と動物用医薬品の事業を引き継いだ。当時の従業員数は「赤穂義士」と同じ47人だったという。

ハヤシアグロの敷地面積は約2万8千平方メートル。工場や倉庫などの施設が計27棟、従業員約80人が働く。

赤穂の「ハヤシアグロサイエンス」

食料安定供給支え20年

芝生や小麦、米などの農業のほか、家畜用の抗生物質やペット用の混合ワクチンなどを国内外の企業約30社から受注。品質の高さが評価され、農業は世界シェアのトップ5に入る全ての企業と取引をしている。

同社の強みの一つが研究所の存在。顧客の要望を素早く新商品開発に生かしたり、海外向けに開発された商品を日本の気候に合わせて

業と取引をしている。



重さ40kgまでの荷物なら軽々と持ち上げられる機械を使い作業する女性従業員



農業と動物用医薬品を手がけるハヤシアグロサイエンスの工場＝いずれも赤穂市加里屋

て作り替えたりしている。女性従業員が多いのも大きな特徴だ。管理職も約6割を女性が務める。山元工場長は「平均して女性は集中力が高く、検査の時などにさまざまな異常に気づく能力に優れている」と評価する。

このため女性が作業しやすいよう、各所に重い荷物を持ち上げるための「省力化機械」を配備。エアコンもほぼ全ての施設に設置している。昼食は会社が用意する弁当を毎日無料で食べられる。

末永節生社長(71)は設立から20年を振り返り、「歴史ある赤穂のまちに貢献できればと操業を続けてきた」と述べ、今後については「従業員の生活を守るとともに、培ってきた技術を継承し、農家を支え、食料の安定供給につなげたい」と語った。

女性従業員6割 働きやすさにも配慮